

令和4年度 県立三和高等学校自己評価表

目指す学校像	①基本的生活習慣の確立を図るとともに、学校行事、体験活動や交流活動等をととして、誠実で豊かな心を育む学校 ②個に応じたきめ細かな学習指導による基礎学力の定着をもとに、確かな学力と自ら学ぶ姿勢を身に付けることができる学校 ③部活動や特別活動の活性化により、心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む澁刺とした生徒を育成する学校 ④望ましい職業観と勤労観の育成を図りながら、生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、地域社会の発展に寄与できる人財を育成する学校 ⑤保護者や地域社会と連携・協力をしながら、教育活動の改善と充実を図る開かれた学校		
成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
新型コロナウイルス感染症への対応は、教育活動を行う手立てが確立しつつあり、本来の教育効果が望めるようになってきたものの、情勢を注視していく必要がある。 現在学校全体が落ち着いた雰囲気であり、ほとんどの生徒は真剣に授業に臨んでいる。 きめ細かな指導による生徒個々に応じた資質や能力の獲得、また基礎学力の定着を目指すべく、ICTの活用など生徒を引きつけ魅力ある授業展開や指導方法の研究を継続していく。 今後は、新学習指導要領に対応した教育課程の円滑な運営に取り組み、なかでも課題研究へと体系的に学習できるよう編成した総合的な探究の時間の活動を充実させ、本校独自の取組と教科指導との相互作用で自ら学ぶ姿勢をもった地域を支える人財を育成していく。	1 基本的生活習慣の確立と誠実で豊かな心の育成	①服装容儀の指導方法を工夫・改善し、自律的な生活態度の育成を図る。 ②挨拶や言葉遣い、話を聞く態度の育成等の礼儀指導の充実を図る。 ③いじめの対処方針や指導計画を定め、いじめの未然防止、早期発見や早期解消に向けた取組を組織的に実践する。併せて関係諸機関とも連携し、いじめや暴力のない「安全・安心な学校づくり」を推進する。 ④生徒や保護者とのコミュニケーションを密にして、悩みや相談に応じるとともに、相談しやすい雰囲気作りに努め、SCやSSWの活用と併せて進路変更者をゼロに近づける。 ⑤境特別支援学校等との交流活動や様々な体験活動、学校行事等を活用して豊かな心を培う。 ⑥学校の教育活動全体をととして、人間としての在り方・生き方に関する教育を行い、道徳心や規範意識、社会性等を育成する。	B
	2 わかる授業の実践による基礎学力の定着	⑦わかる授業の実践をととして一つ一つわかる喜びを積み重ね、不得意科目の克服と併せて、生徒に学習への自信を付けさせる。 ⑧習熟度別学習やTT、ICT活用授業等の指導形態の工夫・改善により、きめ細かな指導を実践する。 ⑨授業力向上委員会を中核とした全職員による協力体制を構築し、授業公開及び研究協議等の充実によって生徒の進路実現に必要な学力を身に付けさせるための組織的な取組を推進する。 ⑩コンピューターやタブレットを活用した授業方法を研究する。	A
	3 部活動や特別活動の活性化によるたくましい心の育成	⑪部活動における指導方法の工夫・改善による競技力の向上や、合同チームなどでの試合機会の確保に努め、部活動の活性化を図る。 ⑫球技会等の学校行事をととして協力する心や団結力を育む。 ⑬LHRにおける指導方法を検討し、より有効なLHR活動を推進する。 ⑭挨拶運動やボランティア活動等をととして、生徒会活動を活性化させる。	A
	4 生徒の進路希望の実現	⑮生徒一人一人の資質・能力や適性に基づいた計画的な進路指導を実践する。 ⑯外部講師による講演会等の実施方法を工夫し、企業見学やインターンシップの代替企画等をととして、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。 ⑰礼儀指導や面接指導を組織的に行う。更に資格取得を奨励し、希望者の進路決定率100%を目指す。 ⑱キャリアパスポート等の活用によりキャリア教育を推進し、社会に貢献できる人財の育成を図る。	B
	5 「地域とともにある学校づくり」の推進	⑲学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域社会からの要望や提言を集約し、学校教育の改善と充実に生かす。 ⑳中学校との定期的な情報交換をととして、中高の連携を密にし、中学校や地域社会に信頼され、安心して通うことができる学校を目指す。 ㉑探究活動やボランティアをととして地域社会と連携や協力する心を培い、交流を深める。 ㉒コロナ下での方法を工夫しながら、中学校や地域社会への広報に努める。	A
	6 将来の学校の在り方に関する議論の活性化	㉓新学習指導要領の目的を達成するため、生徒に身につけさせたい資質・能力を全職員で共有し、生徒の実態に即した魅力ある教育活動を創造する。 ㉔グランドデザインを基に、「将来構想」に関する議論を活性化し、社会の変化を見据えながら中・長期的な学校のビジョンを確立する。 ㉕入学志願者を増加させるための具体的方策について議論する。	B
	7 持続可能な学校教育のための働き方改革の推進	㉖各学校行事について、目的と効果を検証しながらより有効な実施方法を検討し、精選を図る。 ㉗教材の共有化、ICTを活用した情報の共有化やペーパーレス化などを推進し、業務の効率化を図る。 ㉘部活動運営方針を軸に適正な部活動の数や指導の在り方を検討し、見直しを図る。 ㉙校務分掌の再編や業務の見直しにより、教員負担の分散をすすめる。	B

三つの方針		具体的目標				
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○意欲をもって学習や学校生活に取り組み、主体性や社会性、豊かな人間性を身に付けた、地域を支え社会に貢献できる人材				
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○生徒一人一人の多様な学習ニーズにきめ細かく対応した学習活動と体験活動、キャリア教育による、生徒の進路希望の実現				
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○基礎学力の向上を目指して学習活動に励み、学校行事、体験活動や交流活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	習熟度別授業の充実を図る。	習熟度に応じた学習状況の分析を実施し、指導方法・指導内容の工夫・共有により、学習の理解度を高め、達成感や充実感、学習意欲の向上を図る。	⑦⑧ ⑩⑫	B	A	
		クラス編成や評価方法など、運用上の課題を改善する。	⑦⑧ ⑨⑩	B		
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	「できた」という喜びや達成感が味わえる授業、「学び合い」によるコミュニケーション能力をはぐくむ授業、一人一人の実態に配慮した授業を心がける。	⑦⑧ ⑨⑩ ⑫	A		
	ICT機器の活用を推進し、学びに向かう力の育成を図る。	タブレットや電子黒板の活用を推進し、分かりやすい授業展開の工夫を図る。また、教科横断的な学びを心がけ、様々な現象を多面的に捉えられる姿勢や、学んだ知識を活用した課題解決能力を身に付けさせ、自主学習の習慣化を促す。	⑦⑧ ⑨⑩ ⑫	A		
	言語活動の充実を図る。	意見を述べる場面や、討論する場面、考えをまとめる場面や要約の実施など、各教科における授業実践の中で、言語活動の充実を図る。	⑦⑧ ⑨⑩ ⑫	A		
教科	国語	基礎学力の向上と自ら学ぶ姿勢を育む。	音読を通して、様々な文章に接する中で正確な読みが出来るようにする。	⑦	A	B
			語彙力を鍛え、思考力、判断力・表現力を培う。	⑦	A	
		様々な文章にふれる姿勢を養う。	図書館を有効に活用し、読書に親しむ習慣をつけさせる。	⑧	C	
			教材の選定に配慮し、作品に対する興味関心を持たせる。	⑦⑧	A	
		日常生活における伝え合う力を鍛える。	場に応じた話し方(敬語を含む)を身に付けさせ、適切なコミュニケーションを図るための話す力・聞く力を鍛える。	⑦	A	
			ICT機器を活用し、教材や情報を共有し、様々な表現方法を身に付けさせる。	⑩⑫	B	
	地歴	個々の到達度を踏まえた授業展開を図る。	個々の到達度を把握し、取り扱う内容や方法を検討する。	⑧⑫	B	
			生徒に自信を持たせ、学習意欲を喚起する個別指導を展開する。	⑧	B	
		検定試験に挑戦し、資格取得により達成感を持たせる。	検定試験に挑戦し、資格取得により達成感を持たせる。	⑧⑩	B	
			授業目標に沿った授業計画を毎時間立案する。	⑦	B	
		基礎学力の向上を図る。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業の改善に活かす。	⑦	A	
			プリント学習を利用して要点を整理するとともに、生徒自身の振り返りの時間を設け、生徒の理解度を把握する。	⑦⑧	A	
公民	わかりやすい授業を展開する。	学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して適宜補習を実施する。	⑦⑧	B		
		ICT機器の活用により言語活動の充実を図り、地理歴史に対する興味を持たせる。	⑧⑩	A		
	基礎学力の向上を図る。	写真や映像などを用いて、地理歴史に対する興味関心を高める。	⑩	A		
		授業目標に沿った授業計画を毎時間立案する。	⑦	B		
	ICT機器を積極的に活用し、公民に対する興味関心を高める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業に活かす。	⑦	A		
		プリント学習を利用して要点を整理するとともに、生徒自身の振り返りの時間を設け、生徒の理解度を把握する。	⑦⑧	A		
		学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して適宜補習を実施する。	⑦⑧	B		
		ICT機器の活用により言語活動の充実を図り、公民に対する興味を持たせる。	⑧⑩	A		
		写真や映像などを用いて、公民に対する興味関心を高める。	⑩	A		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	数学	基礎学力の向上を目的とし、個に応じた指導を心がける。	習熟度別クラス担当者間の連携を深め、定期テストや基礎力診断テストなどの結果について分析・共有し、生徒の実態に合った授業を展開する。 ⑦⑧	A	A	・タブレットを効果的に使った授業の構築およびデータの共有をすすめる。 ・到達度テストを活用した中学までの基礎基本の定着を目指す。 ・新学習指導要領の目標に沿うよう、授業および評価を工夫し、その方法を共有する。 ・新しい観点別評価について、より良い評価方法の構築を図る。
			基礎・基本がなかなか身につかない生徒や成績上位者に対して、必要に応じて個別指導をおこなう。 ⑧⑬	B		
		学習意欲を高め、わかる喜びを実感できるよう工夫する。	生徒の抱えている疑問や誤りやすい箇所を的確に把握し、学習段階にあった適切な課題を提供し、発展的思考を誘発する。 ⑦⑧	A		
			ICTの効果的な活用により、原理・法則の良さや有用性、定理や公式の汎用性に気付け、数学を学ぶ意義が見出せるように工夫する。 ⑦⑳	B		
		学習指導要領に応じた指導と評価を行うよう努める。	言語活動や体験活動を取り入れた学習場面をつくり、主体的な学びを援助する。 ⑦	A		
			新しい観点別の評価のためにこれまでの工夫に加えて授業ごとに振り返る場面を設けて、生徒の学びを援助できるような評価を行う。 ⑧	A		
	理科	生徒の視点に立った授業を展開する。	生徒の理解度、興味関心を確認しながら、理解しやすい授業を展開する。 ⑦	A	A	・3観点別の学習方法や評価方法を明確にする。 ・実験、実習回数の確保。 ・ICT機器を活用した授業を実施し、生徒の興味関心を高める。
			授業終了後に指導内容を振り返り、その反省点を次の授業の改善に活かす。 ⑦	B		
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習とプレゼン用ツールを利用して、要点を整理するとともに、生徒の理解度を確認して、基礎的基本的事項をしっかりと理解させる。 ⑦	A		
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して、必要に応じて補習を実施する。 ⑧	B		
		自然に対する興味関心を高める。	生徒実験の実施回数を増やし、演示実験などを効果的に用いて、自然の事物や科学的現象に対する興味関心を持たせる。 ⑧	B		
			電子黒板やタブレットを活用して映像やデータなどを提示し、自然の事物や化学的な現象に対する理解を深める。 ⑩	A		
	保健体育	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。	身の回りの健康問題について、疾病との関連や社会への影響などと関連づけて指導する。 ⑦⑧	A	A	・タブレット等のICT機器を使用した授業事例を教員間で共有し、より良いICT活用に結び付ける。
		個に応じて体力を全体的に高めるようにする。	スポーツテストの結果を活用し、それぞれの体力レベルにあった補強運動を定期的に取り入れる。 ⑦⑧	A		
			スポーツテストの結果をもとに表彰を行い生徒の意欲を高めるようにする。 ⑦⑧	B		
		基礎体力・運動能力の向上を図る。	各領域と関連づけた体づくり運動を毎時間取り入れ、仲間とコミュニケーションを図りながら、運動量の確保に努める。 ⑧⑩	B		
			各領域において、楽しく運動をおこなえるよう、公正公平な態度で積極的に授業に取り組む生徒を増やす。 ⑧⑨	A		
		自らの健康を適切に管理し、改善する能力を育てる。	タブレットやICT機器を活用して自らの運動課題を発見し、改善する方法を考えさせる。 ⑩	B		
	芸術	芸術を愛好する心情を育て、より深く芸術を味わう。	個に応じた指導により、基礎・基本の定着を図る。 ⑦⑧	A	B	・タブレットを使用し、より深い学びに繋げる授業展開を目指す。 ・来年度からの、観点別評価に順応し、正確な生徒評価に繋げる。
			タブレットやICT機器の活用により、他者との違いや共通点を発見し、深い学びに繋げる。 ⑧⑩	C		
		芸術的感性を高め、豊かな情操を養う。	様々な芸術分野に触れさせ、その経緯や時代背景への理解とあわせて芸術的感性を高める。 ⑥⑨	B		
			鑑賞活動を取り入れ、多くの芸術作品に触れさせることで豊かな情操を養う。 ⑤⑥	A		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	英語	個に応じた指導を充実させ、義務教育段階での学習内容の確実な定着と基礎学力の向上を図る。	習熟度別学習による少人数指導によって生徒個々の能力に応じたきめ細かな指導を行い、その効果と問題点を明確にするとともに、評価結果を生徒にフィードバックすることで日々の指導の改善・充実を図る。 ⑦⑧	A	B	・各学年の科目担当者によって、評価方法や評価結果にばらつきが出ないように、情報共有を積極的に行う。また、評定を出すにあたり、考查点と授業点の割合を再検討する。 ・タブレット、スタディサブリなどをさらに活用して、基礎学力の定着に努める。 ・生徒の実態に合ったパフォーマンステストの実施。
		言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	授業でのグループ活動やペアワークなどを通して英語でのコミュニケーションに対する興味を持たせるとともに、言語活動そのものへの興味を喚起する。 ⑦⑧	B		
			電子黒板やタブレットを活用し、効果的な授業教材を提示するとともに、ALTとの交流を通して異文化をもつ人々への関心や興味を引き出す。 ⑧⑩	A		
		指導に関する検証改善サイクルを確立し、より洗練された授業を行う。	科全体で授業目標に沿った単元ごとの内容や活動について計画をし、実行する。 ⑦⑧	A		
			4技能を伸ばさせるための言語活動を、生徒一人一人の能力に合わせた形式で実行する。 ⑦⑧	B		
			授業内容や教材について担当者間で共有をし授業を実施する。また、定期的に授業内容や指導を振り返る機会を設け、科全体で情報を共有して次の授業に活かす。 ⑨⑳	B		
	家庭	ICT機器を活用し、日常生活に必要な知識や技術を身につけさせる。	ワークシートや学習ノートを使用し、定期的に内容の確認をすることで知識を定着させる。 ⑦	A	A	・知識の定着や思考力を培うために、学習の見通しがわかる教材を用意することが必要。 ・調理実習だけではなく、実験的な学びを積極的に取り入れていく。 ・「授業一連を通してわかる授業」を行うために、活用できるアプリケーションを活用しながら、授業研究を行っていく。
			電子黒板やタブレットを活用し、視覚教材を多用した被服実習や調理実習を数多く体験させ、基礎的な技術を習得させる。 ⑦⑩	A		
		生活の中から課題を見つけ、創意工夫し生活の向上を図る。	ホームプロジェクトを実施・発表させることにより、生活の質を向上させ、家族のコミュニケーションの深化を促す。 ⑦⑧	A		
		消費者問題や環境問題などの身近な問題について考えさせる。	消費生活の問題について学習し、早期解決法を習得させる。 ⑦	B		
	情報	コンピュータの基本的操作の習得を目指す。	情報検索技術や主要なソフトウェアの操作等、基本的な情報技術を習得できるよう計画的に指導する。 ⑩	A	A	・P Cとタブレット両方を使つての授業展開について研究したい。そのために、P C教室での無線環境について要望を出していく。 ・著作権教育について強化する。 ・SNSの使い方等については、生徒指導部と連携を取り、教員の正しい授業について研究する。
			基本的なキータッチの指導を行い、正確で迅速な入力操作を目指す。 ⑩	A		
		情報モラルの定着に努める。	視聴覚教材などを利用し、情報モラルの理解に努める。 ⑥	B		
		情報社会への参加のために必要な能力を養う。	調べ学習を通して、実生活で起こりうる著作権侵害などの問題を把握させる。 ⑥⑮	B		
			コンピュータや情報配信ネットワークの正しい利用を促すため、視聴覚教材・ソフトウェア・インターネットを効果的に組み合わせて指導する。 ⑮	A		
	福祉	基礎学力の向上と社会福祉に関する基礎知識の習得を図る。	各種研修会に参加して、自己研鑽に努め、教材や指導法の工夫など情報社会への参加のための効果的な指導ができるようにする。 ⑳㉑	A	B	・ICTの活用を研究し、より効果的でわかりやすい授業について研究する。 ・活動に応じた、教科横断的な指導を工夫する。
			教科書やプリント、タブレット等を使って、わかりやすい授業を展開し、自分の考えを文章にまとめたり発表する機会を通して社会福祉の意義や役割を理解させる。 ⑦⑧⑩	B		
	福祉	人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。	車イスの介助体験や障害者体験（体の不自由な人の体験）などの実習や総合的な探究の時間と連携した外部施設での体験を通して、幅広く社会福祉を学ばせる。 ⑤⑥⑮	B	B	

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	学校行事の精選と、効率的な行事の運営を促し、働き方改革を推進する。	月初めに2か月先までの行事予定案を提出し、円滑な運営を目指す。 ⑭⑲⑳	A	・各教科における観点別学習状況の評価方法を明確にし、保護者、生徒に周知する。 ・校務支援システムの運用マニュアル（年度更新および年度始めの各種設定方法など）を修正し、現行の校務支援システムとの整合性を図る。 ・新課程対応に向け、校務支援システムの設定、調整を推進する。 ・新課程に対応した校務支援システムに合わせ、成績会議資料作成用のExcelデータ枠を調整し、設定の見直しを図る。 ・新課程における学校設定科目の運用に向け、用具面や備品等の計画的な準備および、評価方法について細部の審議を図る。 ・校務支援システムに関する入力事項の継続的な呼びかけおよび、入力内容の確認、徹底を図る。 ・図書関係の仕事内容を明確にし、高教研に関連した図書系の業務について、担当者の共通理解を図る。
		行事の企画・運営において関連校務部・学年・教科等との調整に努める。 ㉑㉒	A	
	新しい教育課程の円滑な実施に向け、より具体的な授業計画の検討や、カリキュラムマネジメントの充実を図る。	基礎学力の定着を軸とした、組織的かつ計画的な教育活動に取り組み、学びの基礎診断等を活用したPDCAサイクルの推進を図る。 ㉓㉔㉕	B	
		観点別学習状況の評価を明確にし、きめ細かい学習指導と個に応じた指導の充実を図る。 ㉓㉔㉕	B	
		学校の将来構想に基づき、身につけさせたい資質・能力の育成を踏まえた新しい教育課程の充実を図る。 ㉓㉔㉕	A	
		習熟度別授業や選択授業に対応して、授業交換・填補を円滑に主導する。 ㉑㉒	A	
	日常業務の改善を図り、働き方改革を推進する。	校務支援システムを用いた、要録・調査書等の処理および、観点別学習状況を踏まえた成績管理等を円滑に行う。 ㉑㉒	B	
		奨学金制度の情報を周知し家庭の理解と協力を求め、充実した活用を図る。 ⑲㉒	A	
		教科書の採択事務を適正に行う。 ⑲㉒	A	
	HPの更新に務め、積極的な情報発信を推進する。	各校務部や学年等と連携し、積極的な更新作業や、情報発信を心がけ、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。 ⑲㉒	A	
進路指導	生徒一人一人の能力・適性の発見と伸張を図り、進路選択を支援する。	生徒の学習および職員の研修がよりよく進められるよう、図書資料および視聴覚教材の充実を図る。 ㉑㉒㉓	A	・面接指導や企業とのつながりを大事にする今までの進路指導を継続する。 ・ICTを活用した業務の効率化を図り、さらに働き方改革を推進する。 ・公務員希望者や大学進学希望者への組織的支援を構築する
		生徒の学習および職員の研修にふさわしい図書館となるよう、図書館の美化や図書の配置等を工夫し、利用しやすい環境を整える。 ㉑㉒㉓	A	
		授業やHRの中で、施設および蔵書の積極的な利用を図る。 ㉑㉒	B	
	個人の特性に応じた進路指導により進路意識の確立をはかる。	各種の検査等を実施し、能力や適性の診断をすることで、自己の適性を理解させる。 ⑯	B	
		各教科と連携し、進路実現に必要な基礎学力を身に付けさせる。 ㉑㉒㉓	B	
		LHRや総合的な探究の時間を活用し、進路意識を高める。 ⑬⑮	A	
	進路情報の充実をはかる。	1年次から進路講演会や分野別学習会を実施し、自己の進路や生き方を考える。 ⑯⑰⑱	A	
		2年次においては、実践的なキャリア教育を実施し、職業観を育成する。 ⑯⑰⑱	A	
		3年次においては、段階的面接指導を実施し、コミュニケーション能力を高める。 ⑯⑰⑱	A	
	進路情報の充実をはかる。	担任・生徒への求人情報等の開示システムを確立する。 ㉑	B	
進路指導	保護者への情報提供の場を確保する。	進路便りを発行し生徒・保護者に配布する。 ⑲	A	
	働き方改革を推進する。	業務内容を精選・効率化すると共に、来客者対応についても対応時間の適正化に努める。 ㉑㉒	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
生徒指導	いじめや暴力のない「安全・安心な明るい学校づくり」に努める。	生徒の変化について早期察知と教員間での情報共有に努め、組織だった対応によりトラブルの未然防止と迅速な解決を目指す。 ③	A	A	・SNS関連のトラブルが増加傾向にあるためその対策と未然防止に努める。 ・生徒、保護者、家庭環境が多様化しているため、外部機関（SC、SSW、SL等）との連携を図る。 ・生徒主導の生徒会活動ができるようにする。 ・学校行事の精選、縮小の検討が必要。
		二者、三者面談などあらゆる機会を利用し、生徒・保護者・学校が良好な関係を築け、相談しやすい雰囲気がつくれるよう、関連情報を提供し学年団を援助する。 ③④	A		
		生徒会協働の生活委員会あいさつ運動はもとより日頃からあいさつを奨励し、礼儀正しい集団かつ明るく過ごしやすい学校環境作りに努める。 ②⑥	A		
	規範意識や基本的生活習慣を確立する。	服装容儀指導を毎月実施するほか、授業や校内生活、登下校時において指導していく。改善が見られない場合の段階的指導を積極的に行う。 ①⑥	B		
		授業に参加する姿勢を整えるため、遅刻の段階的指導および授業態度に対する指導を行う。 ⑥	B		
	カウンセリング活動の充実を図る。	スクールカウンセラーを活用した生徒や保護者へのカウンセリングを効果的かつ円滑に実施できるよう、係と担任の間で生徒情報や実施時期について共有に努める。 ③④	A		
	ホームルーム活動をととして、望ましい人間関係を養う。	教師の適切な指導で、生徒の自発的な活動が効果的に展開されるようにする。 ⑬	B		
		有意義な集団生活を築くために、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や、人間関係形成能力を高める活動を充実させる。 ⑬	B		
	生徒会活動をととして、所属感や連帯感を高め、次世代に繋げる。	ホームルームや学年を超えた異年齢集団による生徒相互の交流を活性化させる。さらに、タブレットを利用した計画・実施や記録を生徒自身がを行い、継続的な活動の一助とする ⑪⑫⑭	B		
		生徒会活動が行われる諸集団において、生徒一人一人が何らかの役割を持ち、充実感や存在感を味わうための援助をする。 ⑭	B		
		望ましい人間観、勤労観、職業観を身につけさせるために、ボランティア活動などの体験的な活動を充実させる。 ⑭⑮	B		
保健厚生	学校行事をととして、学校生活に秩序と変化を与え、達成感を高め学校生活の充実と向上を図る。	生徒の学校生活にリズムを与え、折り目を付け、新しい生活の展開への動機付けとなるような行事を実施する。 ⑫	A	A	・生徒数の減少のため、清掃区分や実施日の弾力的な対応を図る。さらに、毎月、大掃除の日を設けて、平常での手薄な区域の改善を狙う。 ・昼食の販売業者の確保を目指す。難しい現状では自販機の多様化を進める計画も、同時に進めるしかない。
		各行事の教育的意義を明確にし、生徒が協力して活動することにより、達成感を得ることにより、望ましい校風を育てていく。 ⑫	A		
	働き方改革を進める。	キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己の活動を振り返る機会を設け、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ⑮	B		
		校務の実態を把握し、内容に応じた電子化やマニュアル化、明確な分担、資料の事前配布など業務内容や効率の改善を図り働き方改革を推進する。学校行事及び生徒会活動などをICTの活用で、効率化を図り、作業手順を最適化することに繋げる。新しい手順での学校行事の進め方を構築する。また、ICTの活用で時間短縮やペーパーレス化を図る。 ⑮⑯⑰	B		
		定期健康診断、体位測定、性教育講話や薬物乱用防止講話などを通して、心身の健康の大切さを認識させ、自己や他者の生命を尊ぶ考え方を育む。 ⑯	A		
	学習環境を整備する。	円滑な保健室運営及び適切な応急処置・感染症対策により、心身ともに健康で安全な学校生活を送ることができる環境作りを心掛ける。 ⑯	A		
		清掃活動、安全点検などにより、校内の美化・整備に努め、よりよい学習環境をつくる。特に大勢の来客があるときは特別な清掃をする。 ⑯	A		
保健厚生	災害時の適切な対応の徹底を図る。	暖房器具や空調設備の安全管理を徹底するとともに、温度・湿度・大気中各種濃度の環境整備に十分留意する。 ⑯	A	A	
		防災計画に基づいて地域とともに校内防災に努める。また、防災避難訓練などを通して生徒の安全意識の高揚を図る。 ⑯⑰⑱	B		
	保健厚生サービスの充実を努める。	昼食販売業者を確定させ、自動販売機も活用し、生徒が利用しやすい環境を整えるとともに、校内販売が健全な食育に資するよう配慮する。 ⑯	B		
	働き方改革を推進する。	グーグルドライブを利用して、部内連絡の効率化を図る。 ⑱	A		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
渉 外	開かれた学校づくりに努める。	PTA総会やPTA行事をととして情報を発信するとともに、保護者との連携を図る。 ⑭⑮	B	B	・PTA行事の実施形態を状況に応じて検討し、実施する。
		各支部の円滑な運営をサポートする。 ⑭⑲	C		
		各委員会活動を活性化する。 ⑭⑲	B		
	働き方改革を推進する。	業務偏重を無くし、効率化を図る。 ⑮⑲	B		
探究企画	探究活動を企画・実施する。	新学習指導要領の目的を達成するため、高校生活3年間を通した探究活動を創造する。 ⑲	A	A	各担当の先生方のご尽力により、実りのある活動を実施できたと思われる。地域との連携をさらに推進し、また活動をさらに深めるため、今後も連携先の外部機関の新規開拓を続けたい。
		探究活動をととして地域や外部機関との連携や協力する体制を構築し、活動内容の具体化に努める。 ⑭⑲⑲⑲	B		
		各学年と連携し、年間を通した総合的な探究の時間の活動を充実させるとともに、授業記録を残し今後の活動や企画に役立てる。 ⑲	A		
	働き方改革を推進する。	課題研究においてICTを活用し、情報の共有化やペーパーレス化などを推進し、業務の効率化を図る。各活動について、より有効で効率的な実施方法を検討する。 ⑲⑲⑲	A		
1 学 年	基本的生活習慣を身につけさせる。	月初めの服装容儀指導、毎時間の授業におけるチェックシートによる指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。 ①	B	B	・タブレット利用の機会を増やすための研修会や情報交換を行う。 ・学力向上を図るため、スタディサブリの効果的利用法を検討する。 ・規範意識をもたせ、法令、規則の遵守を徹底する。
		家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。 ④	A		
	いじめが起こらないような環境づくりに努める。	生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。 ③⑥	A		
		学年内、保健室、保護者などとの様々な情報交換を密にすると共に、「道徳」の授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。 ③④⑥	B		
	基礎学力の向上に努め、自ら学ぶ姿勢を育てる。	習熟度別学習やT T等、指導形態工夫することにより、基礎学力の定着を図る。 ⑦⑧	A		
		コンピューターやタブレットを活用した学びの進め方を研究し、情報社会で生きるために必要な心構えと情報スキルを身につけさせる。 ⑩	B		
		放課後の補習や個別指導を通して、苦手教科の克服に努める。 ⑨	C		
	進路についての啓発を図る。	進路講演会・バス見学会などを実施し、早い段階から進路に関する意識付けを図る。 ⑮⑯⑰⑱	B		
	学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。	各種行事を通して、集団生活を体験させるとともに、集団の中での個の役割を自覚させる。 ⑫⑭⑮	A		
		ボランティア活動への参加や部活動加入を促し、放課後の学校生活の充実を図る。 ⑪⑭	B		
	働き方改革の推進を図る。	行事の実態を把握し、実施方法を工夫しながら状況に応じた精選を図る。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ⑲⑲	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
2 学 年	基本的生活習慣を身につけさせる。	月初めの服装容儀指導、毎時間の授業におけるチェックシートによる指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。①	B	A	・交通事故が起こった時の対処(110番通報、相手の連絡先を聴くなど)について、生徒に伝える。 ・SNSが関係するトラブルの事例学習を実施する。 ・服装容儀指導は【面接対策】を念頭に留意点を再確認し、指導に当たる。 ・生徒の暴力的なコミュニケーションに対する注意喚起を継続する。 ・家庭学習や基本的生活習慣確立を促すために、家庭学習調査を実施し、月ごとの表彰やフィードバックを行う。 ・面接をより高いレベルのものにするために、普段の授業や、特活行事を中心に材料を増やしていき、それを言語化する習慣を身につけさせる。
		家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。④	A		
	いじめが起こらないような環境づくりに努める。	生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。③④	A		
		学年内、保健室、保護者などとの様々な情報交換を密にすると共に、「道徳プラス」の授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。③⑥	B		
	基礎学力の向上に努める。	学校ICT環境を積極的に活用した学びの進め方を研究し、従来教科の学習効果を高めることに加え、情報社会で生きるために必要な心構えと情報スキルを身につけさせる。⑦⑧⑩⑰	A		
		到達度テストを利用した学び直しを目標とする授業を実践し、自己の学力分析をしながら、計画的に弱点を補い、基礎学力を定着させる。⑨⑳	A		
		自ら学ぶ姿勢を育てるために、家庭学習時間調査を実施し、成果の見える化を図る。また、日々の学習の成果を自己分析させ、小さな成功体験の積み重ねから学習意欲を育む。㉓	B		
	進路についての啓発を図る。	インターンシップ実施のための一連の探究学習や、進路学習、地域ボランティア、就業体験(HSコース)を通して、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。⑤⑮⑯⑱	A		
	学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。	コロナ禍で中断されていた団体行事を、感染防止対策を確実に実践することで、できる限り従来の形に戻せるよう、学年全体で意識を高め行動できる力を養う。⑬	A		
		修学旅行を有意義な教育の機会とするために、SDGs等を題材とした探究学習を交え、計画的な指導を行う。また、学年行事は可能な限り全員参加を目指す。⑫⑯	A		
	働き方改革の推進を図る。	行事の実態を把握し、必要な行事のみ精選する。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。㉔㉕	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
3 学 年	基本的生活習慣を確立させる。	随時、随所で服装容儀指導を実施するとともに、学校生活を送る上での最上級生としての自覚、規範意識の定着を図る。 ①⑥	A	B	・進路決定をせずに卒業を最終目標にした生徒は若干名であった。
		服装や頭髮面だけでなく、挨拶や返事、礼儀と言葉遣いを重点的に指導する。 ②⑥	B		
		欠席・遅刻した生徒への指導を重点的に行い、欠席・遅刻の増加を抑える。 ④	B		
	いじめや嫌がらせ、暴力等の問題が発生しない、落ち着いた高校生活を確立する。	生徒観察や面談等を通して生徒理解に努め、直接的・間接的に指導する。保護者との連絡、教員間の情報交換を密にし、問題発生を未然に防止する。 ③④	A		
	個々の能力に応じた指導を心がけ、全体的な学力の向上をめざす。	「総合」やLHR、放課後の時間を有効に活用し、就職や進学に必要な基礎学力や一般常識、面接技術の定着を図る。 ⑮⑰⑱	A		
		個別指導や数学での習熟度別学習により、生徒個々の学力を向上させる。 ⑧⑮	B		
	課題を発見し解決していくための資質・能力を身につけさせる。	総合的な探究の時間にて課題研究を実施し、社会の一員として生きるために必要な課題を発見する力や解決する力の向上を図る。 ⑳㉑㉒	A		
	生徒それぞれの進路目標の実現を図る。	就職・進学に向けた放課後の補習、家庭学習等を奨励し進路実現に備える。 ⑨⑮	A		
		面接指導を工夫し、個に応じた進路実現を目指す。 ⑰	A		
	働き方改革を推進する。	行事ごとに見直しを行い、生徒の実態に応じた行事の工夫と精選を図る。 ㉔	B		
		業務の偏重を無くし、個人の作業効率をあげ、業務の効率化を進める。 ㉔	B		
		ICTを活用することにより、事務作業などを軽減し、業務の効率化を図る。 ㉕	A		